

# 小牧野遺跡

青い森 八甲田山麓によみがえる縄文空間

● 発行 ●  
 青森市教育委員会事務局 文化財課  
 電話 017-761-4796  
 FAX 017-761-4792  
 Eメール bunkazai@city.aomori.aomori.jp  
 ホームページ http://www.city.aomori.aomori.jp/bunkazai/inisie/main.html

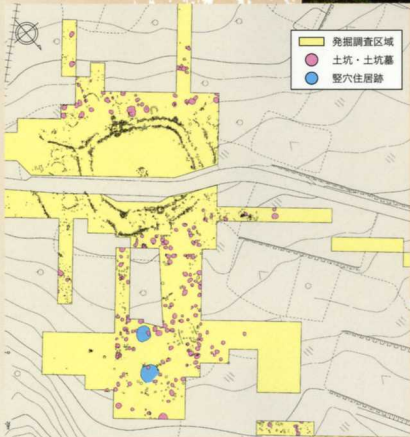
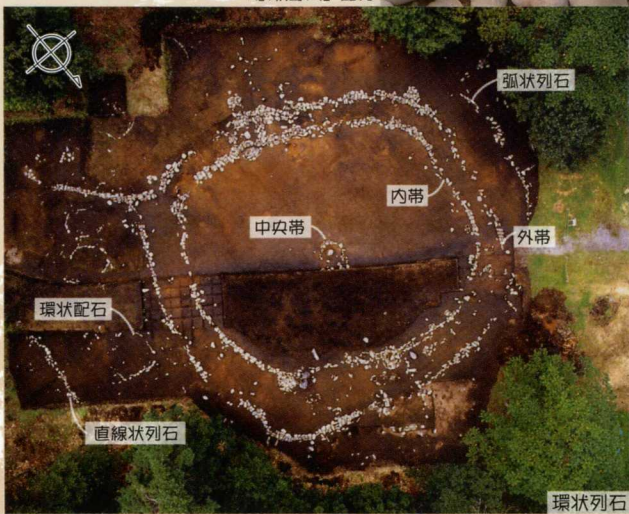
小牧野遺跡は、青森市大字野沢字小牧野に所在し、縄文時代後期前半(約4,000年前)に造られた環状列石(ストーンサークル)を主体とする遺跡です。環状列石は、付近の川から運搬された約2,900個もの河原石によって造られ、直径55mを測るモニュメントです。これまでの発掘調査では、環状列石のほかには竈穴住居跡、土器棺墓、土坑墓群、貯蔵穴群、捨て場跡、湧水遺構等が確認されており、岩版類等の祭祀性の強い遺物も極めて多量に出土しています。小牧野遺跡は、環状列石の用途や性格を考える上で有効な情報を提示する遺跡として注目されています。



「小牧野式」配列

## 環状列石の配置

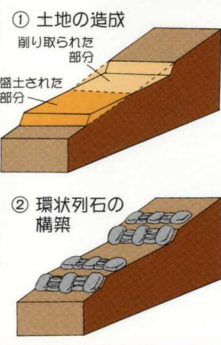
環状列石は、直径35mの外帯、29mの内帯、2.5mの中央帯の三重の輪で構成されるほか、一部四重となる弧状の列石や、さらに外帯を囲むように径4m前後の環状配石などが配置され、全体で径55mを測ります。また、環状列石は、縦横に石垣状に生まれ「小牧野式」とも呼ばれる全国的にも類型の少ない特異な形態を呈しています。中央帯は、460kgの巨石が中央に、その周りに20~30cmの棒状の石が配置されています。



遺構配置図

## 環状列石と土木工事

環状列石が造られる前、その場所は緩やかな斜面で形成されていました。小牧野縄文人は、はじめに①のように、斜面の高い方(南東側)を削り取り、削り取った土を低い方(北西側)に盛りました。その作業を繰り返すことによって中央に広場が造られました。その後、石を川から運び込み、「小牧野式」配列の規則に従い石が並べられました。



環状列石の構築方法

## 住と墓

小牧野遺跡のこれまでの発掘調査では、環状列石とともに、縄文人が住んでいたと考えられる竈穴住居跡や貯蔵穴、捨て場、湧水遺構など生活維持に必要な遺構のほか、土坑墓や土器棺墓など墓制に関わる遺構が発見されています。



土坑墓群



捨て場跡



貯蔵穴



環状配石炉 (ミニチュア環状列石)



湧水遺構



竈穴住居跡

## 道具と祭り

小牧野遺跡では、墓域や捨て場を中心に土器や石器など日常的に使用された道具のほか、土偶や鐸形土製品、岩版類など、お祭りやお祈りに使用されたと思われる遺物が見つかっています。



様々な形の土器



狩りや調理などに使用された石器類



動物や狩猟の意匠のある遺物



土偶や鐸形土製品

## 土器棺墓

土器棺墓とは、一度、遺体を墓に埋葬し、その骨を数年後に取り出し、写真のような土器棺に納め、再び埋葬する施設のことです。これまでに環状列石から、合計4墓の土器棺墓が発見されています。



土器棺墓

特に、三角形岩版は、約400点もの出土が確認されており、環状列石で行われた儀式などに使用されたものと思われます。

## 三角形岩版

三角形岩版は、泥岩や凝灰岩を用いて、表面が亀甲状、裏面が平滑的になっています。このような岩版は、青森湾周辺や黒石市近辺の浅石瀬川流域の遺跡からたくさん出土していることから、青森県の津軽地域を中心に製作されていると考えられています。

また、三角形岩版が出土する遺跡は、環状列石などの大型配石遺構を有する場合が多く、小牧野遺跡と同様に祭りの道具として使用されたものと思われます。



多量に出土した三角形岩版

## 小牧野遺跡 案内図

